横芝の碑（その五十二）

―〈再び世に出た横芝の道標〉―

横芝町役場の正面を旧国道に突当る右角の屋敷は元横芝町の助役さんとして長い間勤務され、町村合併後も選管委員長其他で町に尽力された故江鳩勇治さん（当主は横小校長江鳩恒夫先生）のお宅ですが、そのフェンス寄りを覗かせて頂きますと、何となく、曰くあり気な石の標柱が目につきます。

本紙一一七号（四九年六月）で旧大総村の道路元標を御紹介した時「旧横芝町の道路元標は、旧一二六号国道の路面に埋まっている筈」ということも申上げてありましたが、江鳩さん宅の庭に建っている石標が実はその道路元標なのです。

旧横芝町役場の庁舎は、昭和四年頃まではこの辺に建っていて、道路元標は、その敷地内の塀際に建っていました。其後庁舎は現中央公民館の在る所に移りましたが道路元標だけはそのままで残されていました。

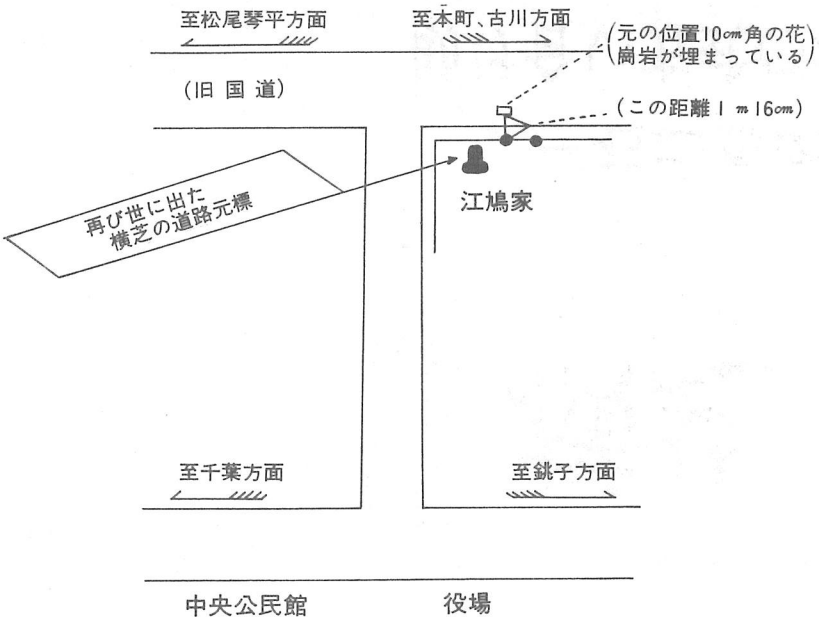
昭和五年か六年頃、国道の幅員拡張と舗装工事が行なわれた時、この道路元標も道路用地に入り、取払われる運命となりました。その時、町の助役さんであった故江鳩勇治さんは「永年町指標となっていた道標を失うのは忍びない、何とか元の位置に残したい」という考えを持たれ、関係当局に働きかけを行ないました、その結果、道路元標は、そのままの形で道路用地となった元の位置に埋められ周囲は道標が破損しない様に配慮されました、しかし、路面は交通の支障がない様に舗装されて終いましたので、事情を知る人以外には余り話題にもならずにいました。やがて、役場に勤める人も新らしくなり、道路元標を埋めた場所周辺の人も変り、何時か幻の道標になろうとしていました。

たまたま、広域上水道工事が始まり、道路元標の埋まっている筈の路面も掘さくされようとしていました、それに気がついたのが収入役の本間さんでした、本間さんは昭和五・六年頃、県の河川関係に勤めておられましたが、町内に住んでいたこと等から、この道路元標埋没処理の経緯も覚えておられたのです。

「このままでカッターやシャベルを入れては折角丁寧に埋めた道標が滅茶〳〵になってしまう。」と心配され、企画広報や建設関係其他役場内の皆さん方と、いろいろその発掘や保存方法についての相談を進めたりしました。幸い事情を知った工事施工者の方の慎重な作業協力で、道路元標は殆んど埋められた当時のままで発掘されました、また、保存については江鳩恒夫先生の全面的な御理解もあって、現在の様な屋敷内に再建させて頂き、四十七年ぶりに陽の目を見ることになった、というものです。また、元標の建っていた場所は江鳩先生のお宅の門柱の前方、一メートル一六センチの路面に、約一〇センチ角の花崗岩を埋めて標示するという細かい配慮もなされたのです。

写真はその再建された道標で、横芝町道路元標と明確に刻まれています。半世紀近い間路面下にもぐったまま眠っていたこの道標は、助役さん当時に、大変その保護に心を配られた故江鳩勇治さんのお宅の庭先からじーっと新らしい横芝町を見つめながら、何時までも何時までも昔の横芝町の想い出となって残るでしょう。（後は江鳩家のフェンスです、見学の場合、折角御協力頂いている江鳩家の御迷惑にならない様にいたしましょう。）

本稿取材に当り本間重寿さん（収入役）の御指導を戴きました。

（町文化財審議会委員　小沢春光氏寄稿）

（案内略図）